

題名からしても、終戦の昭和二十年八月十五日頃の出来事と推定される。執筆者の総てが大東亜戦争に連なる苦境の思い出ばかりです。此の書は最後に亡くなった方々は勿論、生の方々におかれまして、それぞれの文章の一句一句の戦争は勿論、日本人の惨な戦争は勿論、日本国憲法第九条に基づき、如何なる戦争も絶対してはならない、と言ふ、心の底から叫び声が聞こえて来るようです」と綴られている。

問い合わせ
多平八氏

054-1287-4641